

本校生が国際言語学オリンピックで金賞を受賞しました 2026.8.2

本高校 2 年生のリー謙二君が、標記大会で金賞を受賞しました。

リー君は高校入学以来言語学に興味を持ち、チェコ語、ウェールズ語、アルメニア語などを独学で修める一方、外国の言語に興味を持つ生徒を集めて「言語学研究会」を立ち上げるなど、学校で活発に活動しています。

昨年 12 月に行われた国内予選で、リー君は参加約 900 名の内から上位で金賞に選ばれ、あわせて九州・沖縄地区賞を受賞しました。ついで APLO2026(アジア太平洋言語学オリンピック)に出場したリー君は参加約 300 名から全体 4 位・日本人で 2 位となり銀賞を受賞、リー君を含む日本からの上位 8 名が世界大会に進出しました。

その世界大会 (IOL 第 23 回国際言語学オリンピック) は今年の 7 月 26 日～ 8 月 2 日までルーマニアのブカレストで開催されました。世界 46 カ国から 65 チーム、255 人が参加し、リー君は個人戦で 14 名に贈られる金賞 (その 9 位) を受賞し、団体戦では 13 位で努力賞をいただきました。日本代表からは金賞がリー君を含めて 3 名、銀賞が 1 名、銅賞が 2 名という結果でした。

以下はリー君のコメントです。

私は代表の中でいちばん遅くこの大会の存在を知ったので、大会で良い成績を収めるために、休み時間に問題を解いたり、練習会にも積極的に参加したりして、日々の勉強もあり忙しい中でしたが、何とか練習を積み重ねました。世界大会の個人戦は 6 時間あり、トイレや食事はできますが、集中力勝負となります。終わったときはかなり自信があったのですが、代表たちと話すうちに本当に大丈夫かなと不安になってきましたので、表彰式で金賞として名前を呼ばれた時は飛び跳ねて喜びました。日本人からは 3 人が金賞となる快挙でしたが、その一員となれたことを嬉しく思います。

